

せせらぎクリーン対策報告会が開催されました

稲本 文雄

小雨が冷たい三月二十七日(木)「せせらぎクリーン対策」の根幹となる「藻対策」について、昨年六月のシンポジウム以降試されている、川崎市の藻対策進捗状況をお聞きする為「西ノ辺公園集会場」で行なわれました。川崎市からは、下水道局の山岸課長、建設緑政局の古屋課長の他、三名のスタッフの方々におこし頂き、次の三項目について、丁寧な説明を頂きました。



一、藻類に関わる課題
二、高圧洗浄による対策
三、干し上げによる糸状性藻類の抑制

藻の繁殖状況と、高圧洗浄による対策の効果については、昨年のシンポジウムでも説明があり、市役所としては、引き続き高圧洗浄に加え、干し上げを行うことによって、効果が期待出来るかと考えているようです。

会場からは「現在ではびこっている糸状性藻類は、せせらぎが出来るから三年位は無く綺麗な藻だつた。鯉などの生き物も、元々居なかったのだから、干し上げが効果があると言うのであれば、思い切つて全線水を止めて干し上げ、振り出しに戻したらどうか」などと言う意見も飛び出し、前進しない対策に、やや苛立ち混じりな感じも見られました。此の他、「藤棚で流れを覆い、藻の光合成を妨げる、流速を変化させて景觀アップを図る、川底を砂や砂利にし、藻の根張りを防ぐ、などの方法について、検討して頂いたか」との質問に付いては、いずれも費用が掛かり実現不可能と判断し、検討していないとの返答でした。

現在、せせらぎの清掃などに費やされている、年間一千万とも言われる経費は、市民の税金。大切に、有益に使用して頂くには、近隣住民のご協力が、如何しても必要です。長いスパンで検討すれば、これ等の対策は決して実現不可能とは思えません。



八回目を迎える祭りと、

森とせせらぎネットワーク
代表 平井資嘉寿

未来、地域ふれ合い、水と緑のふるさとづくり」が少しずつ根付いていることは最も喜ばしい次第です。

三月にはお雛様、五月は鯉のぼり、八月は灯ろうとたらい舟流し。管理棟でははがき絵展、写真展などが大勢のボランティアの方々によって隔月交代で行われています。「四季の花々と共にせせらぎらしい風情が良く出ている」とウォーキングの人達に大変好評のようです。

ここ最近当団体には若い有能な方々が入会されました。「水と緑を今静かに考えると、水と緑を考える会」のときからの役員として

森とせせらぎネットワークの各部会より

行事部

田辺勝義

今年の行事は、6月22日(日)に第6回目のシンポジウムがあります。今年は、水路の汚い藻の発生をどう抑えるか解決のめどをつけたいものです。

8月16日(日)「灯籠流し」があり「地球の平和、地域の安心」目指し「祈りを込めて」行います。11月9日(日)には、恒例の「森とせせらぎ祭り」で「子ども未来 地域ふれあい 水と緑のふるさとづくり」を目指します。ぜひお越しください。

広報部

田中達也

せせらぎ遊歩道が完成して、風光とは無縁だったこの場所に、清らかなせせらぎと並木道が造られて大勢の人たちが集う憩いの空間が生まれました。

私たちは、森とせせらぎネットワークでは多くの人達の協力と理解を得て、八月お盆の夜には「灯ろう流し」を、秋の良い日には「森とせせらぎ祭り」を開催してきました。また、遊歩道の中ほど管理塔を利用して、4月から11月の期間、隔月で絵手紙展、写真展、菊花展を模様しています。

この場所が、安全で安心出来る憩いの場所である事を願います。

文化部

中谷俊文乃

せせらぎネットワーク文化部主催のものがき絵展もお陰様で六年目を迎える事が出来ました。日頃地域の皆様と愛好家の方々の力強い支えがあり、地域の楽しい交流文化活動に成長いたしました。何より嬉しいのは遠方から江川せせらぎを散歩されるはがき絵ファンの方々に毎回楽しみに観て頂いている事が何より励みとなり原動力になっています。これからも年間通して灯ろう流しやせせらぎ祭り、折り紙展、菊花展、写真展と楽しみも盛り沢山あります。皆様も是非参加して下さいます様お願いいたします。



定期総会の模様

て約二十年ほど経ちますが、余力の続く限り協力は惜しみないつもりでおりますので宜しくお願い申し上げます。

総務部

田辺達夫

当会の目的は、江川せせらぎ遊歩道と周辺の里山の保全維持活動に協力することです。活動の一環として「せせらぎシンポジウム」・「森とせせらぎ祭り」・「灯籠流し」などのイベントを開催してきました。

これらのイベントを開催するに当たっては、地域住民・町会・学校等の協力なくしては成立しません。今年も協力をお願いするとともに、資金面でも企業や個人の方にご支援をお願いいたします。

ホームページ 本間達哉

ホームページはHTMLというコンピュータ用の特殊な言語で書かれています。皆さんが目にする画像や文字などを画面に見やすく映すものです。

この言語は正確でなくてはならず、一言一句間違えても画面に反映されません。細かく根気のいる作業です。

森とせせらぎ祭り

平井資嘉寿

近隣の皆様から「せせらぎネットワークとせせらぎ祭り」の役割についてよく聞かれることがあります。分かりやすく言えば、せせらぎネットワークは年間を通じて、遊歩道の環境を良くする為に活動しています。

せせらぎ祭りはそれぞれの部会を作り、祭り実行委員会を通して活動しています。

横須賀にせせらぎを求めて

予てより、江川せせらぎ水路の藻対策について、EM液の有効性が疑問視される中、横須賀に、江川せせらぎ水路と同じ条件とされる、人工河川があり、EM液を使用して、効果が出ているとの情報がありました。そこで「森とせせらぎネットワーク」では、六月のシンポジウムに、良い報告が出来るよう五月十六日(金)に見学会を、実施すること致しました。

三月二十七日の「せせらぎクリーン対策報告会」に於いては、EM液の使用については、川崎市役所としては、実績の無いものは検討もしないし、使用することはありません。との回答でした。「森とせせらぎネットワーク」では、此の見学会によって、EM液の使用も可能になる事を、大に期待しています。興味のお有りの方は同行も可能ですので、是非ご一報ください。

連絡先: 事務局田辺 766-0550

各地の祭りを訪ねて、足利っこわいわいフェスタ

子どもたちの自主性を引き出して

佐藤 克明

栃木県足利市は、日本最古の総合大学といわれる「足利学校」のまちとして知られています。起源は平安時代からなど諸説ありますが、足利市ホームページの説明で、年代が明らかなのは、室町中期の一四三九年に再建されたという記録が最古です。その歴史を生かして、教育と文化に力を入れ、市民会館では開館二年後の一九六八年に「子どもたちへの芸術環境づくり」を推進し始めていました。全国でも早い時期に、学校に演奏家などを派遣する活動も始め、今では、プロのメンバーによるオペラ団体、室内オーケストラ、ミュージカル団体を専属でもち、子どもたちにも鑑賞や体験の機会を提供しています。

子どもたちのオーケストラもあり、伝統芸能の普及と継承者育成も進めています。子どもたちが自ら企画し実施する足利っこわいわいフェスタは、そうした活動と並んで、毎年十一月三日に行う文字通り子どもが主役、自主性発揮の祭りで、手づくりのチラシから、内容と雰囲気、伝わりがきくまで、子どもたちのできる仕事を紹介していきます。フェスタで使える金券で、その店員や係もみんな子どもたちです。おとなはわいわい銀行で、一わいわい十円で金券に替えます。現代版足利学校の子どもの祭り、注目です。

わいフェスタ 足利っ子わい 11/3(祝・日) 10:00~15:30 足利市民プラザ 参加協力券(入場券) 500円(税込) 200円(税込) 300円(税込)

子どもにやさしいまち、すべてのひとにやさしい

青空ステージ たいしつパフォーマンズが 踊りだすよ。

子どもマーケット 子どものお店が いろいろあるよ。

ハローキッズワーク 子どもが いろいろできるよ。

ミュージアム アート鑑賞コーナー (本と紙で遊ぼう) エアロニクスコーナー (空を飛ぼう) 自由工作ルーム 自由工作コーナー

モバイルハウスで遊ぶよ

カフェ えがき コーヒー、紅茶、ジュース、お菓子などいろいろあるよ。

おもちゃのりんく 親子で遊ぼう

子どもにやさしいまち、すべてのひとにやさしい

足利っこわいフェスタ 11/3(祝・日) 10:00~15:30 足利市民プラザ 参加協力券(入場券) 500円(税込) 200円(税込) 300円(税込)

わいわいフェスタ チラシ

近隣の町会より

井田協和会第二町会

田辺 達夫

井田共和会は井田三舞町・井田杉山町・井田中ノ町・井田の四町にまたがっていますが、私達の井田共和会第二町会は井田中ノ町の全域と井田一丁目の一部によって構成されています。町会への加入世帯数は約二、九〇〇と大きな町会です。

町会の専門部には文化部・美化部・防犯部・交通部・婦人部・広報部・公園愛護部・婦人消防隊・健康福祉部・青年部などがあり各部長を中心に活発な活動をしています。

公園愛護部は町内の公園清掃ほか、江川せせらぎ遊歩道の清掃も毎月第三土曜日朝七時から行っています。担当区域は明津橋の下流で、川の井田中ノ町側です。部員や町会の役員をして一般のボランティアなど、総勢で三〇名ほどの人々が清掃活動に参加しています。この活動を永く継続されていることに対し、私は町会の役員として、森とせせらぎネットの関係者としても頭の下がる思いです。

平成二十六年度から会員が出席した場合、町会からお祝いが出るようになりました。だからと言って町会の役員が増える訳では無いので、目指すものは、誰もが住みよい町づくりです。

森とせせらぎネット及び関連団体イベント紹介

- 井田山・市民健康の森を育てる会 毎月第一木曜 井田山クリーニング 九月 五月十八日(日) バザー 二十 五日(里山研修会)
- 森とせせらぎシンポジウム 「せせらぎ維持管理」に関して 川崎市と意見交換 開催六月二十二日(日)十三時、場所は井田神社
- ひとみ産産婦人科を愛する会 五月二十四日(土) 屋席十五時 夜席十九時 問合せ 七七七二二二五
- 井田お囃子保存会 七月まで行事無し。稽古毎週金曜日六時半、井田小体育館。参加無料。小学生大歓迎。大人の方も歓迎。問合せ 七六六〇二二五
- 神蔵里山を愛する会 竹の子堀・九時、現地の掲示板でご確認ください。毎月第一(日)第三(水)第四(土)草刈竹林管理 六月二日(月)ジャガイモ収穫祭
- ひとみ産女文楽書手公演 五月三日(祝・土)十五時、四日(祝・日)十一時、二十五時、演出「増補大江山酒吞童子」他 料金三〇〇〇円 七七七二二二八

井田子ども囃子について

井田囃子保存会

田辺 哲夫

お囃子の魅力と聞かれれば、五人の(笛・太鼓・鉦)息が合って演奏できた時だと思ふ。お互い疲れも気にせず続けた演奏できた時。逆に現在苦労している事は、練習生の確保。小学校卒業と共に囃子の方も卒業してしまうこと。思うように後継者が出来ないこと。又、一時太鼓の音の問題で練習場所を変えたこと。現在は元の場所に戻っている。



昨年の井田神社祭礼 小学一年以上なら大人でも参加可です

年間行事 元日 井田神社初詣演奏 三月 卒業生を祝う会 七月 子ども盆踊り協力 八月 ひとみ産親子夏祭り 十月 井田神社秋季例大祭 その他地域イベントにも参加 練習は原則として毎週金曜日に井

田神社神楽殿で午後八時半から二時間です。入会は小学生一年以上で随時受け付けています。7660235

「渋谷川ルネッサンス」に参加して

副代表 松本浩次郎

副代表 松本浩次郎

「渋谷川ルネッサンス」は、渋谷川を太陽の下を流れる川として再生・復活させ、世界の人々に水と川の重要性の認識を高め、川に関する諸活動を推進する団体」から招聘を受け、3月9日(日)午後「春の小川会議」に、田中達也広報部長と出席した。

「春の小川会議」とは、皆さんご存知の小学唱歌「春の小川」渋谷川(春の小川はさらさら流る)を復活させようとしている会議です。渋谷川は新宿御苑を源流にし



高圧洗浄中の渋谷川

った芳賀綾東工大名誉教授は、奥様が「高野辰之のお孫さん」、都市型開発ではなく、自然に親しむ日本人のしなやかな文化の再生を強調され、スクリーンには、鮮やかな水流、したたる緑、自然と共生する風景」が写し出された。

日本建築学会の芦原太郎会長は軽快な語り口で、2020年・東京オリンピックの在り方を語った。市民の目線に立った会場の在り方、東京の緑空間、水の再生、自然と生活が調和した街づくり、2050年の人口減を見た「減築化」は示唆に富んだ呼び掛だった。

参加者からの質問・討論の呼び掛けに対し、松本が川崎の「江川せせらぎ遊歩道」の成り立ち、「遊歩道」を楽しむ人々の日常の交流、中原区・高津区の境界を越えた「絆」が生まれたと語ると、会場から共感の音が漏れまじった。和気藹々の記念撮影で、「春の小川」渋谷川ルネッサンス「実現への熱気」と「江川せせらぎ遊歩道」を印象付けた集まりだった。

江川せせらぎ物語ー雨水貯留管、せせらぎ遊歩道の巻

田辺勝義

都市化の中、森林や畑が無くなり、矢上川や江川は洪水を繰り返す「あばれ川」になっていった。70年代以降洪水が繰り返され、特に1983(昭和57)年に大洪水があり浸水防止対策が急がれた。

88年に江川の地下30メートルに水害防止の「雨水貯留管」(豪雨の時に雨水を流し込み、雨が止んだ後排水し、時間差で洪水を防ぐ)が建設されることが計画決定されました。全長1.5キロ、貯留管の直径1.0メートル、貯水量8.5万トンで、50年に一度の豪雨にも対応できるもので、その規模は全国的にも注目されました。

貯留管工事の説明会で、上部には等々力水処理場で高度処理された水を流す「せせらぎ水路」の話が出てきました。これは、等々力での処理水の一部を矢上川に流さなければならぬので、「同じ流すなら高度処理した水をせせらぎとして流そう」と考えたからで、川崎市担当者の想像力の豊かさや意欲の表れでもありました。「この点は先進地の例を上回るものであり、自慢の一つである」と長瀬政義さんは語っていました。(「街なかのせせらぎの道」江川の水と緑を考える会発行、13ページ)後に、せせらぎ遊歩道は国交省より「手作り郷土賞」を受けますが、その理由が「高度処理水を活用し、廃河川となる跡地にせせらぎ水路を整備したこと、2、都市に潤いとし安らぎを与え、市民に親しめる魅力ある水辺空間を創出したこと、3、市民共同のまちづくりを目指したバートナーシップ型の事業であることでした。」(続く)